



令和7年6月

教師は授業で勝負する ～教師の学び～

令和7年度がスタートして2か月が過ぎました。子どもたちの実態把握が進み、課題が明らかになってきたのではないのでしょうか。一方で、子どもたちが多様化し、求められる教師像も変化してきたと感じておられるのではないのでしょうか。そこで「どんな教師になりたいのか」「どんな授業を目指すのか」「子どもたちの背景は」といった基本に立ち戻り、教師も自分に合った学びを実現しながら、授業づくりに取り組むことが大切だと考えます。一例を示します。少しでも参考になれば幸いです。

教師の仕事は「いい授業」をすること

- ・学級崩壊は、授業崩壊である。
- ・学級崩壊を防ぐためには、授業力を磨く。
- ・授業がつまらないから、私語をする。
- ・授業が分からないから、立ち歩く。

子どもにとって、魅力的な授業とは？

- ・よくわかる授業
- ・暇じゃない授業
- ・楽しい授業
- ・もっとやりたいと思える授業

教師が目指すいい授業とは？

- ・() ような授業

どうすれば授業がうまくなる？

- ・「自分って授業がヘタだな・・・」 そう思った時がスタート地点！
- ・先輩や管理職に授業を見てもらう。 ・自分の授業をビデオに撮る。
- ・授業がうまい先生の授業を見学し、まねてみる。
- ・自分らしい授業づくりを見つける。 ・本やネットでコツを学ぶ。
- ・研修会に参加する。



授業づくりの基本

1 本時のめあて（子ども側の目標）を具体的に示す

- ・めあては、本時の目標を子ども向きの言葉で表現する。
- ・**評価規準**（つけたい力を具体的な姿で表記）を設定する。

A 基準：十分に満足した状況

B 基準：おおむね満足した状況

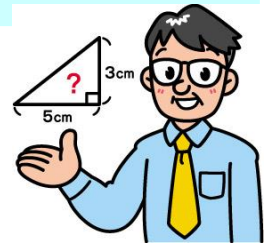
ワークシート ノート
発表 行動観察等での
達成度を評価する

2 板書計画を立てる

- ・子どもの反応を予想し、授業の流れがわかるように、シンプルにまとめる。
- ・黒板と電子黒板の特性を生かして使い分ける。
(**黒板**：めあて、授業の流れ、児童の考え、キーワード、つぶやき、まとめ 等)
(**電子黒板**：集団で考えるための文・図形、既習事項、前時の振り返り等 教師からの情報提供)
- ・ノートに書かせる場合は時間を確保する。

3 考えを揺さぶる問いかけ（発問）をする

- ・「**主発問**」 本時の目標に関わる中心的な発問。子どもたちの思考に働きかけ、心を揺さぶる。
- ・「**補助発問**」 主発問を補ったり、詳しくしたりする発問
- ・明確な問い 一度で問う 反応を待つ 教師はしゃべりすぎない
- ・多様な考えを引き出す。 ・一問一答式はよくない。



4 子どもの活動場面を用意する

- ・子どもの活動・演習の時間を確保する。
- ・「**体験**」と「**対話**」を重視する。
- ・自分で進度を決める場合もある。 ・自由進度の注意点

「学び始めの環境」を整える。実態把握と学びの見通し 他

5 子どもの発言や意見・つぶやきをつなぐ

- ・子どもの意見を取り上げ、つなぎ、深めていく。「みんなはどう思う？」等
- ・**ペアトーク**で子どもと子どもをつなぐ。
- ・子どもの伸びたところを認め、伝える。
- ・間違った答えを、学びを深めるきっかけにし、子どもの自信や学ぶ意欲につなぐ。
- ・授業の中で出た**つぶやき**を聞き、重要かどうかを判断し、タイミングを見て使う。

6 学びの手ごたえを感じさせる

- ・「**まとめ**」 学習の結果得られたことを共有する。いきなり板書するのではなく、子どもに聞くことで学びを整理させる。「どういうふうにまとめればいいのか？」
- ・「**振り返り**」 めあてに対して「できたこと」「わかったこと」「むずかしかったこと」「もっとやりたいこと」「友達から学んだこと」等 視点を共有し、自分の学びを深めたり、他の子どもの振り返りから気づきを得たりする。
- ・文字にすることで学んだことが明らかになる。

7 ICT をあらゆる場面で活用し、情報活用能力を育成する

- ・1人1台端末・電子黒板を積極的に活用する。
- ・**情報活用能力**（情報モラルを含む）をカリキュラムに沿って育成する。

8 「ことばの力」を向上させる

- ・思考力・判断力・表現力等を育成するために、「**記録**」「**要約**」「**説明**」「**論述**」などの言語活動を充実させる。

9 さらに授業改善の視点

- ・「主体的・対話的で深い学びを 実現する授業改善の視点について」

「国立教育政策研究所」のホームページを参照